

中海水産資源生産力回復調査の計画について

1 概要

国土交通省により整備が進められている中海の造成浅場（大崎地先）を水産資源（マハゼ）の生産の場として利活用する方策を調査、検討する。

2 期間

平成24年度（下半期）～（平成26年度）

3 調査水域

大崎地区地先の造成浅場

4 主な調査対象生物

マハゼ

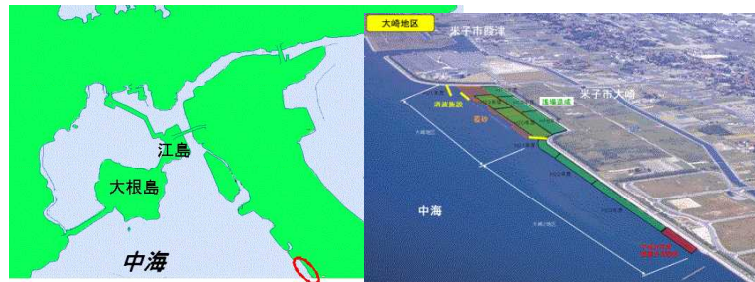


図 調査海域の大崎地先造成浅場



マハゼ *Acanthogobius flavimanus*

容姿に似ず綺麗な白身、ほくほくとした食感も良く、上品な甘みがある。秋の焼きハゼ作りは境港の風物詩。これを水でもどし甘辛く炊いたものは県西部地方の伝統的なお節料理。

5 具体的な内容

① 生物調査

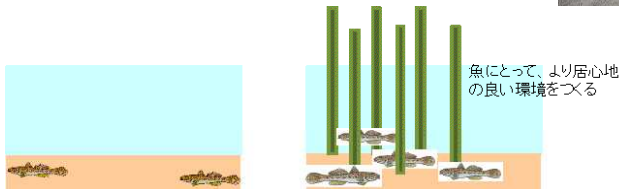
- ・ 小型ソリネット等による採集調査
- ・ 潜水調査

② 機能強化対策

- ・ 竹林礁の設置

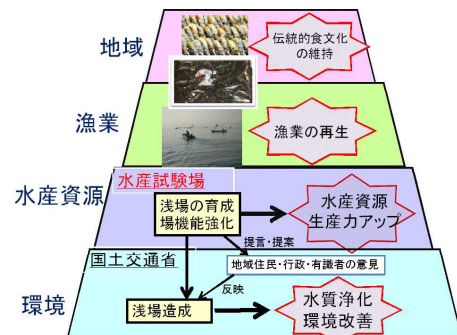


宍道湖の竹林礁
(鳥根県資料)



5 展望

- ・ 漁業者の方と協働で‘実現可能’な増殖手法を提案
- ・ 中海の漁業の維持発展
- ・ 地域の伝統的食文化を守る



<参考>

① 鳥取県西部の焼きハゼ加工場を視察（H23年12月）



- ・ 昨年の地元産マハゼの取扱量は概ね1.3トンくらい。
- ・ 20～30年前は今の10倍はあり、貨車7両分の焼きハゼが東京へ運ばれていた。
- ・ 水産業だけで生計が立てられる漁業者が残るよう、頑張っ欲しい。

② 島根県本庄工区内の竹林礁視察（H24年4月）



- ・ 平成23年4月頃設置。
- ・ 目的は魚の育成場。
- ・ 250本の竹を4人で2日間かけて設置。
- ・ 効果はまだ解らないが、4、5年後に期待しているとのこと。

③大崎地区造成浅場における予備調査（H24年8月）



- ・ 調査漁具の試験曳き。
- ・ 造成浅場内で、潜水調査によりマハゼの分布を確認。

